

# 宮崎兄弟資料館だより

2017/09/30

## シンガポール孫中山南洋紀念館（晚晴園） との交流を促進！！ —荒尾市教育委員会に国際交流員が着任しました—

荒尾市教育委員会では、平成26年9月にシンガポール孫中山南洋紀念館・晚晴園と学术交流をメインとした「基本協定書」に調印し、情報交流をはじめ、史料のレプリカ交換などの交流を重ねてきました。この「基本協定書」の最終年である平成31年には、互いの施設や宮崎滔天とシンガポールとの関係について紹介する「共同報告書」を発刊する予定となっており、両館の連絡調整や原文の翻訳等の業務の担当者としてJETプログラム（語学指導等を行い外国青年招致事業）を活用し、国際交流員（＝CIR, Coordinator for International Relations）を招致しました。



▲「夏休み子ども教室」のようす。  
例年の紙芝居「宮崎兄弟ものがたり」も、今年はタンさんの一言英語が混じってのenjoyableな教室に！



▲子どもたちも本場の英語に興味津々♪

今回荒尾市に着任したタン・ジュンヤンさんは、シンガポール出身で母国語である英語・中国語に加え、日本語が堪能です。着任後すぐの「宮崎兄弟資料館 夏休み子ども教室」では、「一言英語教室」の講師として、子どもたちの興味を強く引いてました。

ここで、タンさんに少しお話を伺いました。

編集) 荒尾に来てから約2ヶ月が経ちましたが、いかがですか？  
荒尾の生活には慣れましたか？

タンさん) はい、すぐ慣れました。荒尾市はとても住みやすいし、同僚もとても親切で、シンガポールの生活との違和感はありません。

編) 今回は晚晴園との交流事業をメインとして、宮崎兄弟資料館と孫文記念館交流事業のために荒尾市に着任されたわけですが、やりがいなどはいかがですか？

タンさん) 正直、荒尾市に来る前は、シンガポールと荒尾市につながりがあると知らなかったです。私だけでなく、シンガポールの人もこの歴史を知っている人は少ないと思います。ですので、この仕事を通じて、宮崎兄弟と孫文の歴史を広く発信していけたらと思っています。

編) 孫文はシンガポールで、どのような位置づけなのでしょう？

タンさん) シンガポール人の7～8割は中国系ですので、孫文はとても有名な革命家として認識されています。でも、宮崎滔天とのつながりまではほとんど知られていないのが現状です。

編) 最後に、一言お願いします！

タンさん) 宮崎兄弟を世界に発信するため、自分のベストを尽くして、悔いのないように頑張りたいと思います。



▲業務に取り組むタンさん

・4/9 第23回 牡丹茶会

今年、中国総領事館から寄贈された牡丹も新たに庭の牡丹園に仲間入りし、濃い紫や淡いピンクの牡丹が咲き誇る中の牡丹茶会となりました。前日はあいにくの雨で牡丹の花も濡れてしまっていたましたが、当日は雨も上がり、100名ほどの方が庭の牡丹を楽しみながら、お抹茶と可愛らしいウグイスの主菓子に舌つづみを打っていらっしやいました。



宮崎兄弟の生家施設の開設まもなくの頃よりお点前を披露されてきた裏千家・堀田社中の皆様によるお茶会も今年で最後となりました。堀田社中の皆様には、宮崎兄弟の生家を活用した文化事業を20年以上にわたり開催されたことに対しまして、心より感謝申し上げます。



・5/16~6/11 第4回牡丹文芸・美術展

宮崎兄弟の生家施設で育てている牡丹をテーマにした絵画・俳句・押花の作品を展示する牡丹文芸・美術展を、今年も宮崎兄弟の生家で開催しました。一般から応募を募り、今年全41点の作品が寄せられました。観覧者からは「押花の立体感と美しさに感動です」といった声も聞かれ、4月に続き、牡丹にまつわる力作が生家を美しく彩りました。



・7/27・7/28・7/31、8/1・8/2・8/4  
第40回 夏休み少年少女俳句教室

40回目となった俳句教室に今年は22人の子どもたちが参加しました。宮崎兄弟の生家には、現代ではほとんど見られなくなった茅葺き屋根をはじめ、縁側、床の間、土間など日本建築の様式を色濃く残していること、また眼前の庭に季節ごとの植物が溢れていることから、毎年感性豊かな作品が子どもたちによって生み出されています。その一部を少しご紹介します。

きのしたに いっぱいあるよ せみのあな  
(幼稚園 石橋ひろとき)  
とうてんの ざしきにニひき おにやんま  
(1年 荒尾快晴)  
汗をかき 俳句をつくる たん生日  
(4年 石橋正教)  
滔天家 かまど古井戸 せみしぐれ  
(4年 藤田柚花)  
友情の つながりがある 梅しげる  
(4年 馬渕和佳)



## ・9/30 JR九州ウォーキング、第12回 音と光の祭典

今年も快晴のなか、JR九州ウォーキングによって多くの方が宮崎兄弟の生家施設を来訪されました。また音と光の祭典では、子どもたちによるペープサート（紙人形劇）をはじめ、琉球演武や音楽コンサート等のステージ部門とお好み焼き等のお店が出店する「滔天マルシェ」で大いに盛り上がり、約1,100名の方が来場されました。



## 資料紹介⑥

戸長申付（明治6年3月12日付）

1873（明治6）年3月に全国的に実施された大区小区制に伴って、白川県（1876年2月に熊本県へ改称）の第二三区小七・八区の戸長に長蔵を任命したもの。

だが、半年後の9月27日に長蔵は辞職願を出しており、その背景には「金納によって下層の武士となるよりも、上層の庶民であれ」といった長蔵自身の思想と、東京に遊学していた八郎に相談した結果、「県庁役人共より色々甘言を申し上げ候事は一切お聞き為さらず在候様、伏して懇祈奉り候。此段幾重にも号泣し伏して願ひ奉り候」と辞職を促す返事があったことが影響したと考えられます。



※小七区：腹赤村・塩屋村・平原村・上沖須村・清原寺村

小八区：永方村・宮崎村・宮崎出目村・赤崎村・折地村・向野村

## 施設紹介③

長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム  
（長崎県・長崎市）



平成26（2014）年4月、旧香港上海銀行長崎支店（国重要文化財、1904年建築）に新たに開設した展示施設です。銀行時代の雰囲気伝える空間で、中国革命の父・孫文と、その思想に深く共鳴し、盟友として物心両面から支援し続けた長崎出身の実業家・梅屋庄吉（1868-1934）との厚い友情を、

各種展示資料やタブレット端末・映像装置類から知ることができます。来年（2018年）は梅屋庄吉の生誕150周年にあたり、記念展示の開催を予定しています。



〒850-0921 長崎市松が枝町4-27

TEL 095-827-8746

URL <http://www.nmhc.jp/museum>

開館時間 9：00～17：00

休館日 毎月第3月曜日（祝日の場合は翌日）

入館料 一般300円（240円）

小中学生150円（90円）

※（ ）内は15名以上の団体料金

☆荒尾市宮崎兄弟顕彰基金への寄附のお願い☆

荒尾市では「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置し、宮崎兄弟の生家施設の維持管理や、宮崎兄弟の顕彰事業に活用しています。世界に誇ることができる荒尾の偉人の歴史を次代に継承していくため、寄附に御協力をお願いいたします。

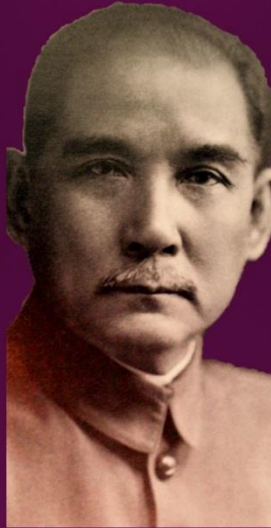



## 企画展の御案内

今から**120年前**—横浜で、滔天と孫文は運命の出会いを果たした。滔天と出会ったことが、孫文の日本における革命運動の礎となり、それはやがて**1911年の辛亥革命成功**へとつながっていく。二人は何を語り合ったのか、孫文にとっての「宮崎兄弟」とは—？

### 宮崎滔天・孫文邂逅**120周年**企画展 「この時をもって孫君に許せり」

会期：平成**29年11月7日**（火）  
～平成**30年1月28日**（日）  
開館時間：**9：30～17：00**  
（入館は**16：30**まで）  
休館日：月曜日  
（休日の場合はその翌日）  
観覧料：一般（高校生以上）**210円**  
小・中学生 **100円**




宮崎滔天・孫文邂逅一二〇周年 宮崎兄弟資料館企画展

この時をもって孫君に許せり

平成**29年11月7日**（火）～平成**30年1月28日**（日）  
荒尾市宮崎兄弟資料館2階 企画展示室

開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）  
休館日 月曜日（休日の場合はその翌日）  
観覧料 一般（高校生以上）210円  
小・中学生 100円  
主催 荒尾市教育委員会



【問】宮崎兄弟の生家施設（〒864-0041 熊本県荒尾市荒尾949-1 ☎0968-63-2595）

### <今後の予定（10月1日～）>

- ・滔天忌俳句大会（12月4日）
- ・文化財防火デー「防火訓練」（1月26日）
- ・春の華展（3月24日～25日）

皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

※詳細については荒尾市教育委員会（☎0968-63-1681）までお問合せください。

### ～編集後記～

今年は宮崎滔天と孫文が会ってから120年の記念の年ということで、宮崎滔天をはじめとした「宮崎兄弟」との出会いがいかにか孫文の革命運動において重要であったのか、イベント等を通じて発信することに努めてきました。また、一小校区元気づくり委員会の皆様には、「音と光の祭典」で「宮崎滔天・孫文邂逅120周年」と冠して開催いただき、ステージの中でも随所で発信していただきました。さらに、JR九州ウォーキングと同日開催となったこともあり、荒尾第一小学校の6年生の子どもたちがJR九州ウォーキング参加者に対してもペープサート（紙人形劇）やガイドで歓迎し、とても好評でした。

どうにかして「宮崎兄弟」のすごさを知ってほしいと思い、平成29年度は邂逅120周年を掲げようと考え

た去年の今頃には、このように盛り上げてもらえることなど予想だにしておらず、滔天と孫文も120年後にまさか荒尾の人たちが宮崎兄弟の生家施設でお祭りをして、老若男女がひと時を共に楽しんでいるなんて想像していなかったのではないかと思います。目頭が熱くなりました。他のイベントの時にも、そうした思いがふとよぎるのですが、そのたびに「宮崎兄弟って、本当にすごい人たちだなあ」と感じさせられます。今年度も折り返しとなり、企画展では邂逅120周年をテーマに現在準備中です。来年度には、宮崎兄弟の生家施設開館から25周年を迎えます。温故知新ではないですが、今後も宮崎兄弟の顕彰に精一杯取り組んでまいります。

### ～次号予告～

今回の「宮崎兄弟資料館・館報」8号は、**2018（平成30）年3月**に発行予定です。

内容は、

- (1) 生家だより No.8
- (2) 資料紹介⑦
- (3) 施設紹介④
- (4) 書籍紹介①

を予定しております。その他、掲載内容について何かご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail：[culture@city.arao.lg.jp](mailto:culture@city.arao.lg.jp)

（担当：野田【荒尾市教育委員会】）